

2019(令和元)年度活動・事業報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)

9つの柱の活動・事業の振り返り(まとめ)

第1の柱 ー会員組織を強め、会員活動を豊かにするために

1. 会員のおさそいが思うように進みませんでした。

- (1)利用会員は、前年の半分の入会にとどまりました。サービスの担い手(協力会員)がふえないことから、加入に対して抑制をかけた結果、ここ10年間で最低の実績に終わりました。
- (2)協力会員は、前年並みですが、一昨年の30人と比べると半減しています。ボランティア説明会を経て入会というルートが、機能しなくなったことに加えて、春秋の集中的な取り組みができなかったことなどが主な原因です。
- (3)ふれあい会員(利用会員)の中に新たな会員区分みんなんち会員を作りました。

No.	種別	2019年度 入会数	2019年度 期末在籍数	2018年度 入会数	2018年度 期末在籍数
1	ふれあい会員(利用会員)	24	253	55	255
2	正会員(協力会員)	12	117	14	131
3	賛助会員	1	20	1	28
4	合計	37	390	70	414

2. 会員活動を多彩に取り組みました。

- (1)毎月の誕生会、秋のお出かけ(茨城を愉しもう)、敬老会、一泊二日の東北交流の旅(東松島被災者と往く秋の宮城路交流旅行)などの会員交流活動を行いました。誕生会では毎回、ゲストをお招きをして、パフォーマンスを披露していただきました。

■主な会員お楽しみプロジェクト

		タイトル	参加人数
1	5月	通常総会	46名
2	7月	えがお集まるみんなんち	120名
3	9月	ふれあい敬老会	51名
4	10月	秋のおでかけ茨城を愉しもう	38名
5	11月	東松島市被災者と往く秋の宮城路 鳴子温泉・石巻1泊2日の旅	25名
6	12月	えがお集まるみんなんち	180名
7	1月	島田喜七さんを偲ぶ会	31名

■誕生会

	月	タイトル	参加人数
1	4月	牧野玲子さんによるピアノ	4名
2	5月	菜の花サークルによる大正琴	7名
3	6月	田中健一さんによるティンホイッスル	8名
4	7月	牧野玲子さんによるピアノ	8名
5	8月	ハーブコンサート(邊見美帆子さん)	7名
6	9月	菜の花サークルによる大正琴	3名
7	10月	三線の調べ(なんくるないさーず)	5名
8	11月	オカリナデュオ花音によるオカリナ	8名
9	12月	ニコリンによるマンドリンと二胡	4名
10	1月	ザ・キャッツによる歌	7名
11	2月	ピアノ四重奏コンサート	7名
12	3月	中止	
合計			179名

(2) 会員研修活動として、新入会員研修会、運転者研修会(2回)を行いました。

(3) 10月にご逝去された、前代表島田喜七さんの「しのぶ会」を2020年1月、みんなんちを会場に、しめやかに行いました。

第2の柱-たすけあい活動、運営への会員参加

1. たすけあい活動(有償ボランティア)は、

(1) ふれあいサービスは、利用会員増を抑制した結果、利用人数は、前年度比91%にとどまりました。

新入会員のうち現役世代が活動継続することの難しさ、生活援助サービスの担い手の離脱などさまざまな(就職・病気など)理由から、協力会員の協力数も88%に減少しました。

(2) 利用会員は、ホームページ、市役所経由の依頼が月7~8件あったものの、協力会員不足から成約に至らなかった。

2. 高齢協力会員問題

(1) ふれあいサービスのうち移動サービスの主力が、75歳~79歳で50%を占め、70歳~74歳で37%、65歳~69歳 8%です。最高齢帯の引退を考えると、安易に利用会員を増やせないとのブレーキがかかったことも事実です。真剣に取り組むべき課題です。

種類		2018実績	2019実績	前年対比
利用者数 (人)	移動サービス	935	887	95%
	生活援助サービス	330	266	81%
	合計	1265	1153	91%
協力者数 (人)	移動サービス	299	288	96%
	生活援助サービス	234	179	76%
	合計	533	467	88%
時間数	移動サービス	3919	3936	100%
	生活援助サービス	1113	1005	90%
	合計	5032	4941	98%

第3の柱 — 制度サービスは包括的視点の強化を図る

- (1) 訪問介護 — 主力メンバーが様々な事情で3名秋口に退会したため、下半期の活動時間(サービス提供実績)は前年の2/3に激減しました。サービス提供責任者の成り手が見つからない状況で、廃業も選択肢に入りましたが、残ったメンバーで頑張るとの力強い意見で継続しました。
- (2) 居宅介護支援 — ケアマネージャーは1名の出入りがありました。通年5名の体制となりました。利用者は年のべ1861名、前年103%と微増にとどまりました。
- (3) ケアマネージャーは、週1回の連絡調整会議を持ち、インフォーマルサービスを積極的に取り入れたプランや、他業種連携、他居宅介護支援事業所の困難事例検討会に参加するなど力を入れています。
- (3) (障害福祉) 計画相談支援 — プラン件数35と前年比 106%。一人の担当者として目いっぱいやっています。

(制度サービス)

種別	活動(提供)時間数			利用人数		
	2019実績	前年増減	前年対比	2019実績	前年増減	前年対比
居宅介護支援				1861	57	103%
訪問介護	2292	-1049	69%	351	-193	65%
相談支援				127	8	106%
移動支援	78	-1214	6%	6	-97	6%
合計	2370	-2263	51%	2367	-211	92%

第4の柱 - ふれあいの居場所みんなんち活動

- 2018年3月の移転後、当初は、新しい会場の特徴をいかしきれずにいましたが、2019年度は、広くなった場所を活かした「ふれあいの居場所みんなんち」の活動になりました。
- 健康麻雀 当初は、2卓立てるのに精いっぱいでしたが、最近では、4卓でも満杯になるほどの人気講座です。

誕生会 毎月の誕生会では、プロ・セミプロの出演者による演目が行われるようになり、出席者から好評です。

企画イベント(コンサート)

No.	月	項目	参加者
1	6月	フラダンスフェスティバル	15名
2	8月	ハーブコンサート	67名
3	10月	三線の調べ	14名
4	2月	ピアノ四重奏	41名
合計			137名

講座活動

No.	項目	
1	うたごえ喫茶(月1回)	101名
2	折り紙(月1回)	90名
3	手芸教室(月1回)	68名
4	がんばるーん体操(月1回)	2名
5	健康麻雀(毎週)	506名
6	お茶の文化(月1回)	2名
7	英語で歌おう(月1回)	25名
8	ピアノで歌おう(月1回)	31名
9	映画鑑賞(月1回)	76名
10	オカリナサークル(月1回)	37名
11	石井先生の元気教室(月1回)	32名
合計		970名

3. 暮らしの保健室

- (1) 月一企画は、2019年度を貫くテーマとして「エンディング」を掲げて取り組みました。
- (2) 月1回 PT による個別相談と転倒予防体操を組み合わせた取り組みをしました。
- (3) 月1回主任ケアマネによる個別相談と「いまさら聞けない介護保険」講座を行いました。
- (4) 月1回認知症家族サポートサロンでは、認知症家族の悩み相談と情報交換を行いました。

月一企画

月	月一企画	
4月	・栄養バランスを考えた食事のススメ～講座と簡単料理、スパムを使って。 (江澤佳哉子先生)	5名
	・健康の秘訣は口から～富士見台歯科 岸田先生	3名
5月	高齢者施設を知ろう～サ高住と有料老人ホームを見学	16名
6月	ワインを気軽にたのしみませんか～ワインソムリエ CA 今泉さん	15名
7月	熱中症を予防して元気な夏を～看護師 国府田正枝さん	12名
8月	ポールウォーキング体験会	4名
9月	サバ缶を使った簡単クッキング(認知症予防)～管理栄養士 安川南穂さん	6名
10月	おにぎりアクション	16名
11月	ワイヤークラフト～片岡さん /はじめての介護保健 ～佐久間さん	6名
1月	新春夢かるた／終活カルタ	6名
2月	～NHK スペシャル 認知症の第1人者が認知症になった 上映会	6名
毎月	認知症家族サポートサロン	42名
毎月	転倒予防体操	24名
	合計	161名

(3)勉強会

月	内容	参加者
11月	高次脳機能障害って何	31

第5の柱 - 支え合い助け合いを広げる活動

- ふれあいの居場所みんなんちを会場に、多世代交流イベント「えがお集まるみんなんち」を2回開催。市内の子ども食堂2団体との協働活動で実施しました。
- 2層地域づくり会議に協力
常盤平地区地域づくり交流会「災害弱者のための防災を考える」 11/30
明第2東地区地域づくり交流会「この住み慣れた地域で楽しく暮らすために」 2/13

第6の柱 - 新事業の検討と準備

- 様々な視点から検討をしてきましたが、通所介護(デイサービス)を開設することに決めました。コロナ感染症のおさまるのを待って開設します。

第7の柱 - 教育・研修活動の強化

1. 福祉有償運送運転者講習会を2回、元気シニアの活躍サポート研修会を2回開催しました。

福祉・介護の人材養成事業として、福祉有償運送運転者講習会、元気シニアの活躍サポート研修会などを2回開催、35人を養成しました。

第8の柱 - 東日本大震災被災者支援活動

1. 被災者が主体となったサロンの運営が軌道に(宮城県東松島市)

(1) 宮城県東松島市被災者支援・交流活動として、牛網地区においてコミュニティサロン「東松島みんなんち」が設立されて3年。サロン、百歳体操や裂き織り教室、を毎月開催(延べ300人参加)、地域コミュニティ再生に役立つ活動になっています。ふれあいネットまつどからは、随時、事務局、役員が支援に入っています。

(2) 11月には一泊二日で、東松島市被災者と往く秋の宮城路交流旅行を開催。石巻、鳴子温泉を訪れ、交流しました。

2. 東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトの取り組み

千葉県東葛地域の広域避難者に対する支援活動を、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト事務局団体として、避難者交流サロン黄色いハンカチを拠点に取り組みました。活動の整理を図ることを目的に、3月末で、事務局団体をおり、一会員団体になりました。

第9の柱 - 事務局機能の強化

1. 事務局スタッフの処遇改善を実施したが、引き続き世間相場との差を縮めるようにしていきたい。
 2. 引き続き収益事業の抜本的拡大が課題です。
-